

# AIを含むデジタル分野のガバナンス議論の状況

---

2025年11月 IGF勉強会

総務省 参与  
OECDデジタル政策員会議長  
広島AIプロセス・フレンズグループ議長

飯田陽一

# グローバル・デジタル・コンパクト(GDC)

## 1 経緯等

- ◆2021年9月、事務総長が発表した報告書「Our Common Agenda」において、「すべての人にとってオープンで自由かつ安全なデジタルの未来のための共有原則を概説する」ことを期待して、2023年9月の未来サミットで「グローバル・デジタル・コンパクト(GDC)」に合意することを提案。(その後、未来サミットの開催は2024年9月へ延期。)
- ◆GDCは、未来サミットの成果文書“Pact for the Future”のアネックス(別添文書)として**2024年9月22日**(NY時間)に採択された。

## 2 主な内容

- ◆GDCは、序文(パラ1~6)、目的(パラ7)、原則(パラ8)、コミットメントと行動(パラ9~63)、フォローアップとレビュー(パラ64~74)から成る。特に、「コミットメントと行動」部分では、関連のSDGsターゲットと結びつけた上で、5つの各目的のもと2030年までに行うべきコミットメントが以下のとおり列記されている。

### 目的1: デジタル格差の解消及びSDGsの進歩の加速

- インターネットへの容易な接続を強化・促進
- デジタルリテラシー、スキル、能力の向上
- デジタル公共財とデジタル公共インフラの利用の促進

### 目的2: 全ての人のためのデジタル経済における包摂性の拡大

- すべての人・企業にとってのオープンかつ公正なデジタル環境の整備に向けた支援

### 目的3: 人権を尊重・保護・促進する、包摂的、オープン、安全で安心なデジタル空間の醸成

- デジタル空間における人権の保護に向けた施策の実施
- 包摂的で安全なインターネットガバナンスの促進 (**primary multi-stakeholder platform**としての**インターネットガバナンスフォーラム**の支援を含む)
- 安全で安心できるオンライン空間の実現
- 情報インテグリティの強化に向けた施策の実施

### 目的4: 責任ある公平で相互運用可能なデータガバナンス・アプローチの前進

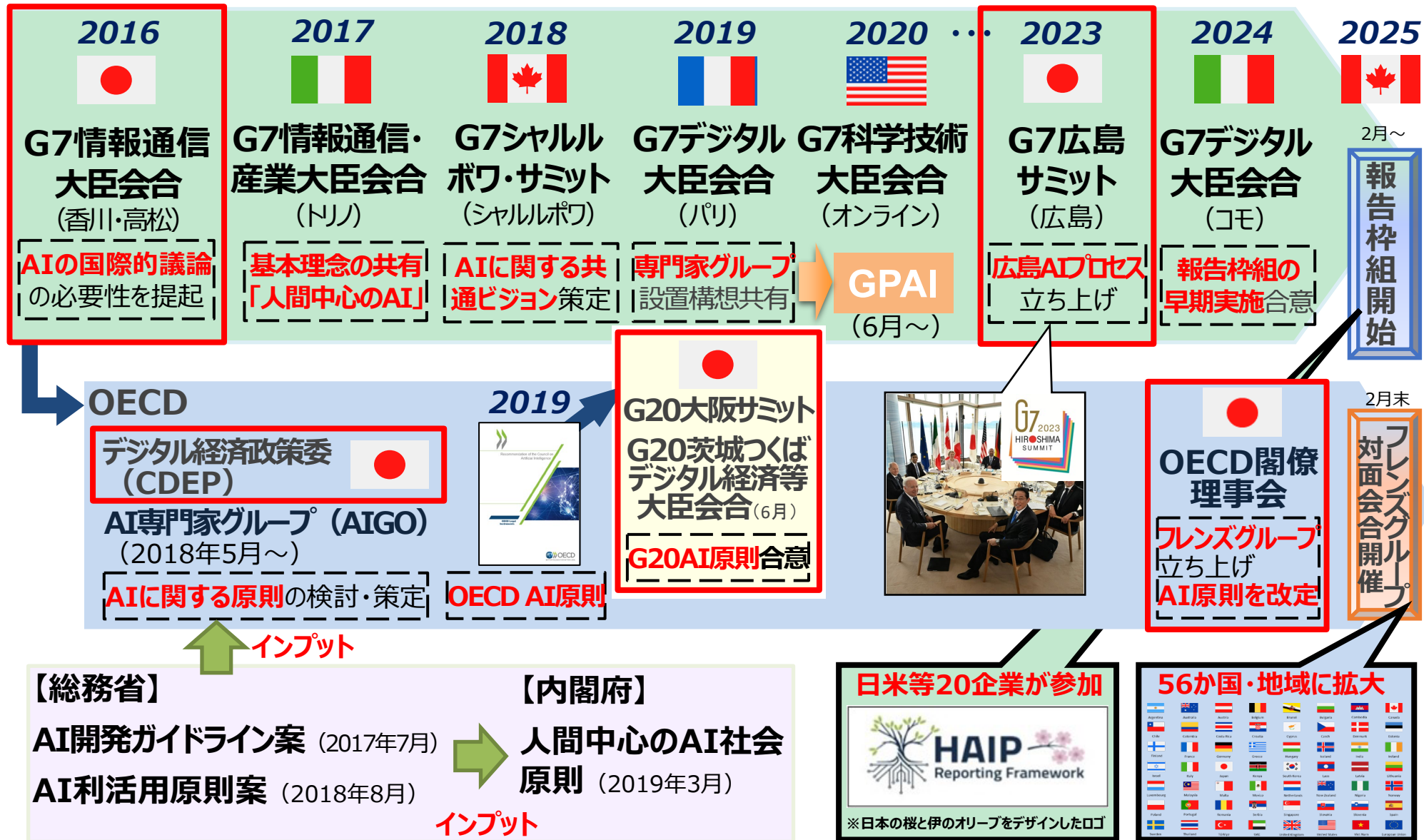
- データプライバシー及びデータセキュリティを考慮した相互運用可能なデータガバナンス枠組の構築
- データの共通標準の開発及びデータ交換の促進
- 持続可能な開発のためのデータの収集・分析・普及の強化
- **信頼のある国境を越えたデータ流通の促進のための協議**を実施
- データガバナンスに関するマルチステークホルダー対話のための作業部会の設置

### 目的5: 人類の便益のためのAIの国際ガバナンスの強化

- AIに関する国際科学パネルの設置
- **AIガバナンスに関するグローバル対話の開始**  
(パネル及び対話の詳細については今後加盟国間で協議予定)
- AIに関する能力構築に係る資金オプションの検討

- ◆「フォローアップとレビュー」として、既存のフォーラム(世界情報社会サミット等)や国連機関がGDCの実施に果たす役割を認めつつ、GDCに記載されるデジタル協力を調整するためのオフィス設置の提案を事務総長に要請(パラ72)、第82期総会期にGDCのハイレベル・レビューの実施を決定(パラ74)。

# AIの国際ルール形成における日本の貢献



# 【参考】 G7カナナスキスサミット（カナダ）について

日程： 2025年6月15日（日）～17日（火）

場所： カナダ アルバータ州 カナナスキス

- 包括的な「首脳コミュニケ」は作成せず、**分野別に簡潔な首脳声明を作成**（作成分野は①重要鉱物、②A I、③量子、④国境を越えた抑圧、⑤山火事、⑥移民）※1。

※1 その他、イラン・イスラエルを巡る中東情勢に係る声明も発出された。

- サミットには石破総理が出席し、総務省からは今川総審が随行。

## 1. AIに係る首脳声明の概要について

- 4つの柱（①公共部門へのAI導入加速、②中小企業へのAI導入支援、③AIの活用によるエネルギー課題への対応、④新興国・途上国とのパートナーシップ拡大）について記載。
- また、②中小企業へのAI導入支援に関し、付属文書として「G7・AI導入ロードマップ」を添付。
- 広島AIプロセスについては、以下の記載あり。

②**中小企業へのAI導入支援**に関連し、（「G7・A I 導入ロードマップ」を通じて）

**広島A Iプロセスの成果の活用を含め**、A I の導入に関する企業と消費者との間の信用及び信頼を強化するためのツールを開発する。我々は、この取組を推進するために、A I に関するグローバル・パートナーシップのような国際的なパートナーと協力する。

④**新興国・途上国のパートナーとのパートナーシップ拡大**に関連し、

我々は、開発のためのA I、持続可能な開発のためのA I ハブ、カレントA I、フェア・フォワード、**広島A Iプロセス・フレンズグループ**、公共の利益のためのA I 等を含むイニシアティブを通じて取組を連携させ、これを実現する。

## 2. 量子に係る首脳声明の概要について

- コンピューティング、センシング及び通信を含む量子技術が、世界中の社会に重要かつ変革的な利益をもたらす潜在力を有することを記載。
- 量子技術の潜在力を最大限に実現するためには、投資を動員し、資源を最適化し、研究及び商業化を進め、サプライチェーンを確保し、インフラ、人材及び市場へのアクセスを促進し、共有された利益及び価値に整合的な形で導入し、リスクを管理しイノベーションを引き出すための信頼できるエコシステムを構築するべく、政府、研究者及び産業界が国際的に協働することが必要であることを記載。



※具体的な取組として、以下9つのコミットメントを記載。

①量子科学技術への官民投資の促進、②量子技術の応用開発及び導入の促進、③公平な機会の支援、④ベストプラクティスの共有及び労働力開発政策の推進、⑤同志のパートナー間での開かれた公正な市場環境と信頼できるエコシステムの促進、⑥量子技術への信頼促進、⑦量子技術に関連するリスクの理解の向上及び量子耐久セキュリティ措置等の導入推進、⑧同志パートナー間での測定及び試験の推進、⑨G7量子技術作業部会を通じた連携

# 日米間の技術繁栄ディールについての協力に関する覚書（抜粋）

## AI の導入とイノベーションの加速

AI は、人々に力を与え、医療、バイオテクノロジー、教育などの分野における進歩を促進することにより、イノベーションの新たな黄金時代を約束する。両当事者は、**イノベーションを促進する AI 政策の枠組みの推進**、AI フルスタックにわたる輸出の促進、重要・新興技術に関連する保護措置強化の重要性を認識した上での既存の保護措置の厳格な執行の確保、業界標準に関する協働、及び子どもたちのデジタル・ウェルビーイングの確保に関して緊密に協力する意向であり、安心して信頼できる AI エコシステムを互恵的な方法で推進するというコミットメントを共有：

- > AI の導入を加速するための革新的研究を推進すること；
- > AI のパフォーマンスとアプリケーションに不可欠な基盤インフラを強化すること；
- > 日米主導の AI 技術エコシステムの導入を支援するため、**イノベーションを促進する AI 政策の枠組みやイニシアティブを推進**すること；
- > 日米の AI インフラ、ハードウェア、モデル、ソフトウェア、アプリケーション及び関連標準のフルスタックにわたる輸出を促進すること；
- > 相互運用性を促進するため、適用可能な慣行を調和させることを目標に、それぞれの当事者からの **AI 開発・導入のためのガイドライン及び枠組みの相互理解を促進**すること；
- > 日本の AI セーフティ・インスティテュートと米国の AI 標準・イノベーションセンターのパートナーシップを、**AI の計測におけるベストプラクティスの追求、業界標準の開発、AI の継続的な導入を促進するための次世代の AI モデル及び分野固有のアプリケーションの理解向上を含む、安心して信頼できるAI エコシステムの育成による AI イノベーションの促進という共通の使命に向けて前進させ、改めて重点を置くこと**



- 南アフリカ（ケープタウン）において、2025年9月29日に**G20デジタル経済大臣会合**、同月30日に**AIタスクフォース大臣会合**が開催された。日本からは総務省、経産省、デジタル庁が参加。
- 両会合の成果文書として、**南アフリカの議長声明を発出**（米国等の反対により、閣僚宣言は見送り）。

## 1 デジタル経済大臣会合

※11月22～23日にアフリカ大陸では初めて開催されるG20サミット（南ア・ヨハネスブルグ）に、成果文書をインプット

### （1）議長声明

議長国南アフリカが提示した、接続性、デジタル公共基盤、中小企業・イノベーション、AIの**4つの優先課題（プライオリティ）**につき議論し、それぞれの課題と取りうる対策について記載。

### （2）日本からの主な発言

- 接続性：技術革新の中で**インフラを継続的に進化させる必要性**を強調し、日本の取組を紹介。
- AI：日本が主導する「**広島AIプロセス**」やAI法の紹介のほか、**DFFTやマルチステークホルダーによる議論**の重要性を強調。「**安全、安心で信頼できるAI**」の実現に向けた国際社会への貢献継続を発言。

## 2 AIタスクフォース大臣会合

### （1）議長声明

- **公平で包摂的、安全、安心で信頼でき、責任ある、倫理的かつ持続可能でグローバルなAI環境の実現のため、マルチステークホルダーによるグローバルなAIガバナンスの構築**の重要性を強調。
- デジタル経済大臣会合の議長声明を踏まえ、**多言語・多文化対応など7つの主要テーマ**について記載。

### （2）日本からの主な発言

- 多分野にまたがるボーダレスなAIの議論をまとめるという議長国南アフリカの取組を評価。
- **言語的・文化的な多様性を反映したAIモデルの開発やAI分野の人材育成等**の重要性を強調。

プライオリティ 1) 接続性、利用、そして支援条件を通じた普遍的かつ公平なデジタル包摂  
(Universal and Equitable Digital Inclusion Through Connectivity, Usage, and Enabling Conditions)

概要	デジタルディバイドの課題に対し、政府を含むマルチステークホルダーによる包括的な対策が必要。
附属書	「ユニバーサルかつ公平なデジタル包摂の枠組み」

プライオリティ 2) デジタル・トランスフォーメーションの主要要素としてのデジタル公共基盤  
(Digital Public Infrastructure as a Key Element for Digital Transformation)

概要	包摂的、強靱で持続可能なDXの礎としてデジタル公共インフラの活用を認識。信頼性のある自由なデータ流通（DFFT）の重要性を再確認。
附属書	「DPI公共価値測定フレームワーク」「DPIの統合的ガバナンスに関するガイドライン」

プライオリティ 3) デジタル・イノベーション・エコシステム：中小企業の潜在力を解き放つ  
(Digital Innovation Ecosystems: Unleashing the Potential of MSMEs)

宣言本体	デジタル技術の導入による包摂的な経済成長のため、能力構築への投資の重要性を認識。
附属書	「中小企業及びスタートアップの未来を形作るためのフォーサイト研究」 「アフリカのベンチャーキャピタル・エコシステムを形作るためのフォーサイト研究」

プライオリティ 4) 善のため、全ての人のための公平で、包摂的で、信頼できる持続可能なAI  
(Equitable, Inclusive, Trustworthy and Sustainable Artificial Intelligence for Good and for All)

宣言本体	リスクに基づいた、人間中心の、開発志向で、イノベーションを促進するAI政策およびガバナンスのアプローチへのコミットメントや、G20 AI原則を再認識。安全、安心で高品質なデータセットを実現するためのDFFTの重要性を表明。特に発展途上国におけるイノベーション、経済成長、開発の強化に貢献し、政策交流、知識共有、研究活動、技術移転を通じ能力構築をサポート。
附属書	「人工知能の利用に関連する不平等を軽減するためのツールキット」 「AI活用型中小零細企業（MSME）および研究者のためのデータアクセスに関するガイドライン」

公平で包摂的、安全、安心で信頼でき、責任ある、倫理的かつ持続可能でグローバルなAI環境の実現のため、マルチステークホルダーによるグローバルなAIガバナンスの構築の重要性を強調。デジタル経済大臣会合の議長声明を踏まえ、以下の主要テーマについて記載。

データガバナンス	責任ある、信頼できる、公平かつ包摂的で持続可能なAIの開発に必須。
公共分野	人権の尊重、透明性・公平性・説明責任の促進のため、公共分野における安全、安心で信頼できるAIの導入を支持。
科学研究と開発	様々な分野におけるAI科学研究を加速させ、研究の安全性と完全性を確保。
情報の正当性	偽・誤情報等のリスクを認識し、デジタルリテラシー・スキル向上によるオンライン安全性を促進。
多言語・多文化対応	現地語による高品質なデータセットの生成と利用はAIが多様性を尊重する上で不可欠。
AI for Africa	アフリカにおけるAIの拡大に向けたAIエコシステムの開発や投資モデル等の開発を奨励。
技術政策支援	人権を尊重し、国および世界の公益に沿ったAI政策の形成のため、G20メンバーを支援するファシリティを歓迎。



# The G7 Hiroshima AI Reporting Framework



# Online interface with 7 sections at [transparency.oecd.ai](https://transparency.oecd.ai)

✦ Your responses are automatically saved, and you can return to them at any time.

Disclaimer [You may download a blank editable Word document of this questionnaire →](#)

Section 1  
Risk identification and evaluation

Section 2  
Risk management and information security

Section 3  
Transparency reporting on advanced AI systems

Section 4  
Organizational governance, incident management and transparency

Section 5  
Content authentication & provenance mechanisms

Section 6  
Research & investment to advance AI safety & mitigate societal risks

Section 7  
Advancing human and global interests

- OECDのwebページ(<https://transparency.oecd.ai/>)で公開されている質問票にweb上で回答。
- 質問項目は広島AIプロセス「国際行動規範」の項目に対応。Yes/No等の選択式、自由記述で構成。

	質問項目	質問例（仮訳）
1	リスクの特定および評価	AIに関連するさまざまなリスクをどのように定義および/または分類していますか？
2	リスク管理および情報セキュリティ	AIライフサイクル全体にわたるリスクと脆弱性に対処するためにどのような措置を講じていますか？
3	高度なAIシステムに関する透明性報告	高度なAIシステムに関連するリスクについて、多様な利害関係者とどのように情報を共有していますか？
4	組織の統治、インシデント管理、および透明性	リスク管理の方針（ポリシー）および実践について、ユーザーおよび/または一般市民に伝達していますか？
5	内容の認証および来歴確認の仕組み	高度なAIシステムによって生成されたコンテンツをユーザーが識別できるようにするコンテンツの生成履歴検出、ラベル付け、または電子透かし手法（メカニズム）を使用していますか？
6	AIの安全性向上と社会リスクの軽減に向けた研究及び投資	コンテンツ認証および来歴の現状を向上させるための研究に、貴社はどのように協力し、投資していますか？
7	人間と世界の利益の促進	ユーザーの意識向上や、高度なAIシステムの性質、能力、限界、影響の理解を支援するためのデジタルリテラシー、教育、研修の取り組みを支援していますか？

# 広島AIプロセス・行動規範のための報告枠組みの実施状況

組織名	提出日	国籍	ページ数	組織名	提出日	国籍	ページ数
TELUS Digital	Jun 5, 2025	CA	43	KYP.ai GmbH	Apr 23, 2025	DE	27
MGOIT	Apr 24, 2025	RO	22	Microsoft	Apr 23, 2025	US	60
Rakuten Group, Inc.	Apr 23, 2025	JP	14	NIPPON TELEGRAPH AND TELEPHONE CORPORATION	Apr 23, 2025	JP	12
Fujitsu	Apr 23, 2025	JP	17		Apr 23, 2025	JP	18
Ai21	Apr 23, 2025	IL	12		Apr 23, 2025	JP	13
Fayston Preparatory School	Apr 23, 2025	KR	14		Apr 23, 2025	DE	9
TELUS	Apr 23, 2025	CA	23		Apr 23, 2025	US	13
Google	Apr 23, 2025	US	28	West Lake research & education service, a division of Palo Alto Research	Apr 23, 2025	US	13
OpenAI	Apr 23, 2025	US	30				
Anthropic	Apr 23, 2025	US	10				
Salesforce	Apr 23, 2025	US	34	SoftBank Corp.	Apr 23, 2025	JP	15
				KDDI Corporation	Apr 23, 2025	JP	17

# Participants in the HAIP reporting framework

AI developers	AI deployers	Advisory and research firms
<ul style="list-style-type: none"><li>• Google</li><li>• Microsoft</li><li>• OpenAI</li><li>• Anthropic</li><li>• NTT Corporation</li><li>• Fujitsu</li><li>• Preferred Networks</li><li>• SoftBank</li><li>• NEC Corporation</li><li>• AI21 Labs ♦</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Rakuten</li><li>• Salesforce</li><li>• TELUS</li><li>• TELUS Digital</li><li>• KDDI Corporation</li><li>• KYP.ai GmbH ♦</li><li>• MGOIT ♦</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Palo Alto Research</li><li>• ‘Data Privacy &amp; AI’ consultancy</li><li>• Fayston Preparatory School</li></ul>

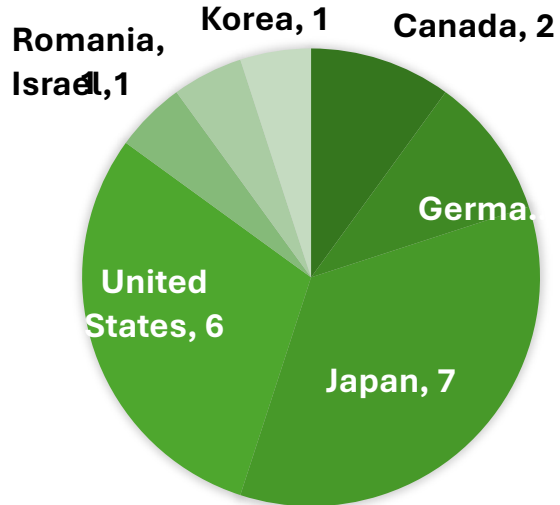
♦ = Small and medium-sized enterprise



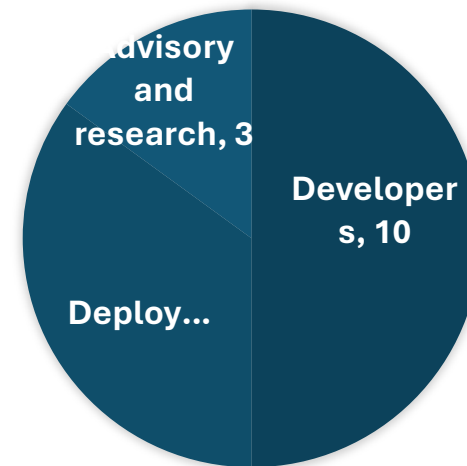
# Overview of submissions to the Hiroshima AI Process Reporting Framework

<https://transparency.oecd.ai>

## SUBMISSIONS BY COUNTRY



## SUBMISSIONS BY ORGANISATION TYPE



### **Engagement activity beyond submissions**

- More than 20 additional reports initiated
- Over 140 user accounts created

# 報告枠組みの公表結果の分析

東京大学江間研究室では、HAIP報告枠組みに基づく報告書提出AI組織からのヒアリングを実施し、企業の経験に基づいて報告枠組みのメリット、デメリットや今後への提言を行っている。ヒアリングと分析結果の概要は以下の通り。

<https://drive.google.com/file/d/1Re8fApWZTVzU1xMXBBuS3V-C3pASU7Kz/view?usp=sharing>

## ヒアリング参加企業

KDDI Corporation, SoftBank Corp., Preferred Networks, NEC Corporation, NTT, Microsoft, Salesforce, OpenAI, Google, Fujitsu, Rakuten Group

## 主な意見

### ・作成・提出に関するハードル

既存情報の統合や新たな情報作成が必要。他方で社内・グループ内情報の整理や現状把握に有益。

### ・トッポ・社内関係者の説得の難しさ

提出の意義が理解されない。HAIPの知名度の低さ。

### ・質問票・フレームワークの課題

用語や概念の曖昧さ、特に対象とするAIの範囲、回答者としての立場（開発者、利用者）、回答内容のオーディエンス（行政、利用企業、一般ユーザなど誰に向けての回答なのか）の明確化

### ・明確さと柔軟性のトレードオフ

### ・意図せざる用途（順位付けや否定的評価）への懸念

## 改善提案

- |            |                                |
|------------|--------------------------------|
| ・対 G7・OECD | 質問票の簡素化、質問項目の重複排除、知名度の向上       |
| ・対 参加企業    | 対象オーディエンスの明確化・メッセージの標準化、用語集の策定 |
| ・対 利用者     | 提出自体の評価、誤用（ランク付け、否定的評価）の回避     |

11月27日 [https://www.tc.u-tokyo.ac.jp/ai1ec\\_event/16044/](https://www.tc.u-tokyo.ac.jp/ai1ec_event/16044/)

（江間研究室資料より作成）

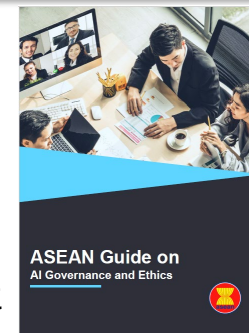


# AIガバナンスに係るASEANの主な取組等

## 1 ASEAN・AIガイドについて

### (1) ASEAN・AIガイド

- ✓ ASEANは、昨年2月のASEANデジタル大臣会合において、**AI全般**（軍事用を除く）について、設計、開発、導入のための手引として「**ASEAN AIガバナンスと倫理に関するガイド**」（**AIガイド**）を公表。
- ✓ ASEAN域内の企業等を対象とした**基本原則**とそれに基づく**ガバナンス枠組み**に加え、本ガイドの履行に向けた**各国政府及びASEANレベルの政策提言**を記載。
- ✓ ASEAN各国のAI政策に関する枠組み間の**相互運用性を促進し、ASEAN域内での連携の進展**につなげる狙い。
- ✓ 同ガイドを**生成AIについても対応**させるため、シンガポール主導で改訂作業中。**改訂版（拡大版AIガイド）**は、本年1月のASEANデジタル大臣会合で承認予定。
- ✓ 拡大版AIガイドでは、ASEAN各国に対する**AI安全性研究所(AISI)**等の設置と研究所間の**連携等**の提言を記載。



### (2) 我が国の推進するAIガバナンスとの関係

- ✓ 我が国は、OECD AI原則や広島AIプロセス「国際行動規範」等の国内外の枠組みを踏まえ、生成AIを含むAI全般を対象とする「AI事業者ガイドライン」を策定。
- ✓ 「ASEAN・AIガイド」も、OECD AI原則等に基づきAIガバナンス上の原則を規定しており、**基本的アプローチは我が国と共通**。他方、**更なる連携強化**のためには、我が国の「AI事業者ガイドライン」や「国際行動規範」との対応関係等を整理し、我が国とASEANの**相互運用性の強化に向けた協力**を実施することが有益。

〔企業等を対象とする「国際行動規範」と各国政府への提言も含む「AIガイド」との間には構成上の相違が存在するも、**主な内容は同等**。先行して実装される「国際行動規範」により得られた経験をASEANと共有することで、両枠組みを**実際に運用する上での調和**を目指すもの。〕

## 2 ASEAN・AI安全性ネットワーク

- ✓ 拡大版AIガイドの提言に基づき、AI安全性に関する知識共有等をASEAN内で行うため、ASEAN各国のAI安全性研究所及びこれに相当する機関の間のネットワークを、本年1月のASEANデジタル大臣会合で立ち上げ予定。



# 【参考】ASEAN AIガイド等について

ガイドライン等	概要
<b>ASEAN・AIガイド (ASEAN)</b>  ※AI全般を対象	<p>➤ <b>AIガバナンス上の原則を策定</b></p> <p>1) 透明性と説明可能性、2) 公平性と平等、3) セキュリティと安全性、4) 堅牢性と信頼性、5) 人間中心、6) 透明性プライバシーとデータ管理、7) 説明責任と健全性</p> <p>➤ <b>原則を元に、4つの基本要素を規定</b></p> <p>1) 組織内部のガバナンス構造と措置、2) AIが支援する意思決定過程への人間の関与、3) リスク評価、バイアス対策等、4) 利害関係者の関与</p> <p>➤ <b>各政府による措置を推奨</b>（研修、イノベーション、研究開発等）</p> <p>なお、拡大版で以下を追加予定。</p> <p>➤ <b>生成AIによる課題につき各国の政策担当者に対し指針を提供</b></p> <p>1) リスクの定義、2) 説明責任、3) データの質の確保、4) 信頼できる開発と活用、5) インシデント報告、6) テストと保証、7) セキュリティ、8) 内容の来歴、9) AI安全性等に関する研究開発、10) 公益のためのAI活用</p> <p>➤ <b>上記課題に対処するため、17の政策を各国に提言</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ ASEAN地域の協調と相互運用性を重視</li><li>✓ 国際合意との整合性を重視</li><li>✓ AI安全性等に関する研究プログラムのサポート（各国にAI安全性研究所等の設置とこれら研究所間の連携を推奨）</li></ul> <p>そのほか、データセット、個人データ保護、脆弱性検出、セキュリティ情報、インシデント報告、コンテンツ来歴等に関する連携を提言。</p>
<b>AI事業者ガイドライン (日本)</b>  ※生成AIを含むAI全般を対象	<p>➤ <b>「人間中心のAI社会原則」の基本理念を土台とし、OECDのAI原則等を踏まえ、基本理念・原則を構成</b></p> <p>➤ <b>原則を元に各主体が取り組むべき指針や事項を整理</b></p> <p>1) 人間中心、2) 安全性、3) 公平性、4) プライバシー保護、5) セキュリティ確保、6) 透明性、7) アカウンタビリティ、8) 教育・リテラシー、9) 公正競争確保、10) イノベーション</p> <p>➤ <b>広島AIプロセス国際指針等に基づき、AI事業者ガイドラインの第2部D「高度なAIシステムに関する事業者に共通の指針」等にて遵守すべき事項を記載。</b></p>
<b>国際行動規範 (広島AIプロセス)</b>  ※主に生成AIを対象	<p>➤ <b>高度なAIシステムを開発する組織向けの国際行動規範等。</b></p> <p>➤ <b>同規範を自主的に遵守する企業による履行状況を確認するための報告枠組を策定。</b></p> <p>1) リスクの特定・評価、2) リスク管理・情報セキュリティ、3) 高度なAIシステムに関する透明性報告、4) 組織の統治、インシデント管理、透明性、5) 内容の認証・来歴確認の仕組み、6) AIの安全性向上と社会リスクの軽減に向けた研究・投資、7) 人間と世界の利益の促進</p>

2024年5月 OECD閣僚理事会の場で岸田総理（当時）が立ち上げ。  
広島AIプロセスに賛同する国を拡大し、グローバルに安心、安全で信頼できるAIの開発・利用の普及を目指す。  
2025年10月現在、58か国・地域が参加。



## Activities of “Friends Group”

- Group convenes **online or in-person/hybrid** meetings for information sharing and view exchanges on AI governance policy.
- Group will also work with other **stakeholders from industry, academia and other communities in the AI field.**



# 広島AIプロセス・フレンズグループ会合の結果について

2025年2月27日～28日、東京で初の対面会合となる広島AIプロセス・フレンズグループ会合を開催。  
G7を含むフレンズグループ参加国約40か国代表や国際機関のほか日米のAI企業等が参加。

## 概要

- ・ G7を含む約40の国・地域の高級実務者（局長級）や国際機関等が参加。2024年5月のフレンズグループ立ち上げ後の初の対面会合。
- ・ 開会式では、石破総理大臣からビデオメッセージにより挨拶。2日間の会合で、総務省の阿達副大臣、今川総審に加え、城内内閣府大臣、平デジタル大臣※、生稲外務大臣政務官他が参加。※ ビデオメッセージ
- ・ 松尾東京大学教授や原山GPAI東京センター長が講演を行った他、OECD、世界銀行及びJICAがプレゼンを実施。参加者間で、AIの機会とリスク、AIガバナンスの在り方、国際連携等について議論。

## 会合の意義・狙い

- ・ G7を越えて開発途上国を含む多くの国との連携強化を図る。
- ・ 開発途上国に対しては、人材育成（キャパシティビルディング）の機会として、AI政策や広島AIプロセス等に対する理解を促進。
- ・ 「報告枠組み」への各国AI開発者の参加を促進し、広島AIプロセスの「国際行動規範」等の実効性を確保する。

## 会合結果

- ・ 参加各国でフレンズグループを通じた、国際連携の強化の重要性が再確認された。フレンズグループの活動を含む国際的なAIガバナンスにおける日本の貢献・リーダーシップに参加各国より強い支持・賛意が示された。
- ・ 民間企業や国際機関等が参画し、フレンズグループの活動を支援する自発的な枠組みである「広島AIプロセス・フレンズグループ パートナースコミュニティ」を立ち上げ。マルチステークホルダーによる協力体制を強化し、広島AIプロセスを一層促進。



開会式の様子

# 「広島AIプロセス・フレンズグループ・パートナーズコミュニティ」

- 広島AIプロセスの精神に賛同する民間AI関連企業や国際機関等が参画し、フレンズグループの活動を支援する自発的な枠組み。
- 「広島AIプロセス・フレンズグループ会合」（2025年2月27日～28日@東京）において、「パートナーズコミュニティ」の立ち上げを公表。
- 同コミュニティを通じて、フレンズグループ参加国政府が、広島AIプロセスをより深く理解し実施できるような支援するとともに、各国AI開発者の「報告枠組み」への参加を促進し、「安全、安心で信頼できるAI」をグローバルな実現を目指すとともに、マルチステークホルダーによる交流・協力の推進を目的とする。

## 1. 概要

- (1) **参加者**：広島AIプロセスの精神に賛同する民間AI関連企業、公的機関、国際機関等
- (2) **目的**：フレンズグループ参加国政府が、広島AIプロセスをより深く理解し実施できるような支援するとともに、各国AI開発者の「報告枠組み」への参加を促進し、「安全、安心で信頼できるAI」をグローバルに実現する。
- (3) **活動内容**：フレンズグループ会合への参加、フレンズグループ参加国政府への情報提供、参加国政府との協力プロジェクトの推進等。

## 2. 参加企業・組織（現在25主体。今後も拡大予定。）

Adobe、Amazon、Box Japan、BSA、CAIDP（Center for AI and Digital Policy（NPO）（米））、富士通、Google、Impact AI（AIソリューション提供企業（南ア））、JICA（国際協力機構）、KDDI、Microsoft、NEC、NTT、OECD（経済協力開発機構）、OpenAI、日本オラクル株式会社、Palo Alto Networks（サイバーセキュリティ企業(米)）、Preferred Networks、楽天グループ、SaferAI（AIリスク管理に関するNPO（仏））、Salesforce、ソフトバンク、UNDP（国連開発計画）、WB（世界銀行）、WEF（世界経済フォーラム）

※下線は2月28日の立ち上げ時の参加企業・組織（16主体）。

- ・ **公益目的のための保健データの二次利用**

「国境を越えた公益目的の保健データの二次利用の促進」に関する政策

- ・ **信頼できるデータ仲介機関**

- **信頼できるデータ仲介機関としての国家統計局**

国家統計局（NSO）を信頼できるデータ仲介機関（TDI）として使用するユースケースに焦点を当てた信頼できるデータ仲介機関（TDI）に関する分析報告書

- **データスペースおよびその他の分散型認証済みデータ仲介サービス**

「データスペースにおけるビジネスモデルの持続可能性の評価と公共政策の役割」の調査結果

- ・ **神経科学技術：プライバシーとデータガバナンスへの影響**

神経技術のプライバシーへの影響。バイオテクノロジー・ナノテクノロジー・融合技術作業部会（BNCT）との共催。

- ・ **オンラインにおける児童の安全と幸福のための年齢保証**

児童の安全を確保するための年齢確認に関する研究報告書「年齢確認に関する法的・政策的枠組みのマッピング」の中のデータ保護およびプライバシー枠組みに関する議論

- ・ **説明責任、コンプライアンス、規制改革**

データ保護の枠組み間の整合性を強化し、国境を越えた状況における有効性を向上させ、越境での個人情報保護を改善するために、データ保護法の主要規定間の整合性を促進

- ・ **人工知能および新興デジタル技術**
  - データガバナンスおよびプライバシーに関するOECDの議論AIの文脈で再考
  - AIトレーニングのためのデータ収集メカニズムのマッピング
- ・ **AIと保健に関する最新情報**
  - 保健委員会（HC）は、AIの医療利用に伴うブラックボックス・アルゴリズムの利用によるセンシティブなデータのプライバシーや責任に関する懸念に対処するため、AIと保健に関する作業部会を設置
- ・ **AIにおけるプライバシー強化技術（PETs）**
  - PETsとAIに関する分析報告書
- ・ **AIとデータに関する各国の動向**
  - i) AIの文脈における戦略的データ政策問題に関する最近の国内イニシアティブ、
  - ii) DeepSeek-R1 LLMを含む新しい大規模言語モデルの立ち上げに対する対応。

### ・ 越境データフロー

#### - DFFT専門家コミュニティ

#### - 国際的な支払いとデータフロー

金融安定理事会（FSB）は、2024年12月に採択された「国境を越える支払いに係るデータ・フレームワークの整合性および相互運用性を促進するための勧告」に関するフォローアップ作業および部門横断的な協力を調整するための「国境を越える支払いのデータに関する新たなフォーラム」を設立

### ・ 規制協力

#### - マネーロンダリング、テロ資金調達、拡散資金調達との闘いにおけるデータ保護の考慮事項

金融活動作業部会（FATF）は、支払いの透明性に関するFATF勧告16の改定に関する進捗状況を報告し、プライバシー執行当局および関連省庁の早期段階での関与を促す

#### - プライバシー保護に関する法律の執行における国境を越えた協力に関するOECD勧告

2007年のプライバシー保護に関する法律の執行における越境協力に関する勧告の改定

#### - 規制横断的なデジタル協力

プライバシーとその他の規制枠組みの相互関係に関する分析



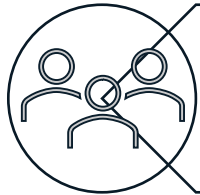
# The DFFT Community: why, what, who?

トラストは特定のユースケースやコンテキストで関係者が協力することでしか醸成されない



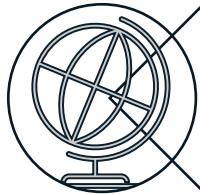
**Rationale:** Trust cannot be decreed through policies. It is built through cooperation with all relevant stakeholders in concrete cases and contexts.

OECDの越境データ流通の政策研究を有効活用する世界初のイニシアティブ



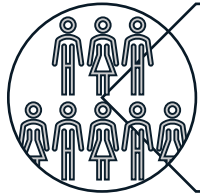
A world-first, unique initiative launched in 2023 which effectively **irrigates the policy work of the OECD** on cross-border data flows and trust with concrete expertise

40か国以上とEU、APEC、ASEANなどの国際機関からの300人規模の専門家



300 experts from more than 40 jurisdictions on all continents from 6 International Organisations, including regional organisations (EU, APEC, ASEAN)

企業、団体、データ保護主管庁、関係省庁、学識者、市民社会の参加するMSHコミュニティ



Companies, business associations, data protection authorities, ministries, academia, civil society, etc.

# DFFTコミュニティのプロジェクト

## プライバシー強化技術 (PETs) の実装



Implementation of Privacy Enhancing Technologies (PETs) to facilitate trusted data sharing in cross-border contexts (plans for a Global repository of cross-country comparable PETs use cases)

## 国際送金と越境データ フロー



Cross-border payments and data flows: support to the G20 Roadmap on cross-border payments 2020/27 (launch of a FSB FATF Forum on cross-border payments data)

## 越境サプライチェーンの ためのデータの完全性と 信頼性



Ensuring data integrity and trust in data flows for cross-border supply chains --Phase 1: mapping challenges and solutions (data spaces, PETs, TDIs, DPIs, etc.?)

## 医療健康データの越境共 有と再利用



Supporting cross-border sharing of health data and health data re-use: technical, economic, and legal challenges and opportunities

## 制度的確実性・透明性の 推進とデータ保護制度の 融合



Promoting legal certainty, transparency, and convergence of data protection laws to support cross-border operations based on data